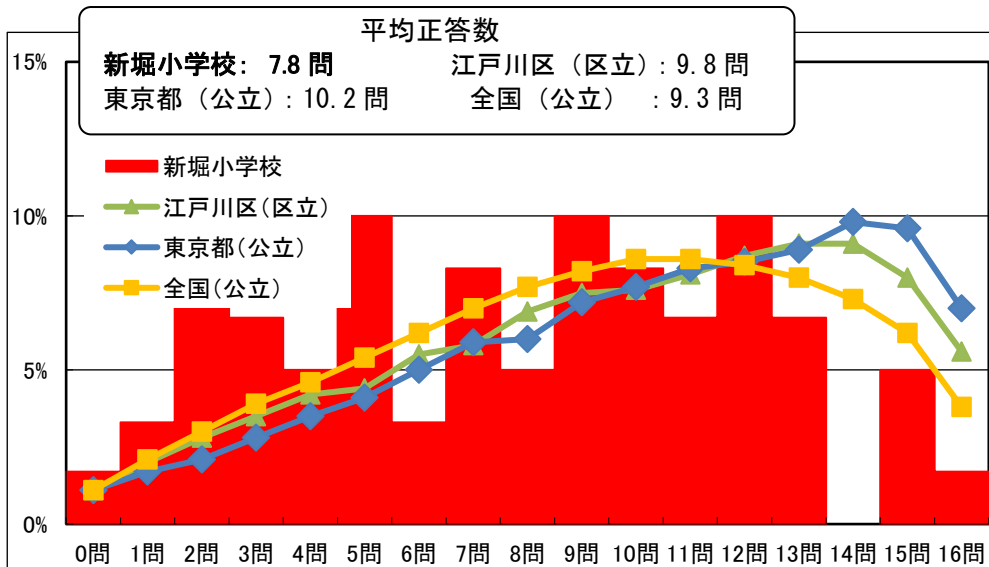


令和7年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【算数】 新堀小学校

正 答 数 分 布



<四分位における割合(都全体の四分位による)>

算 数	上位 ←		→ 下位	
	A層 14～16 問	B層 11～13 問	C層 7～10 問	D層 0～6 問
新堀小学校	6.7	23.4	31.6	38.3
江戸川区 (区立)	22.7	25.9	27.9	23.5
東京都 (公立)	26.4	25.7	27.6	20.3
全国 (公立)	17.3	25.0	31.4	26.3

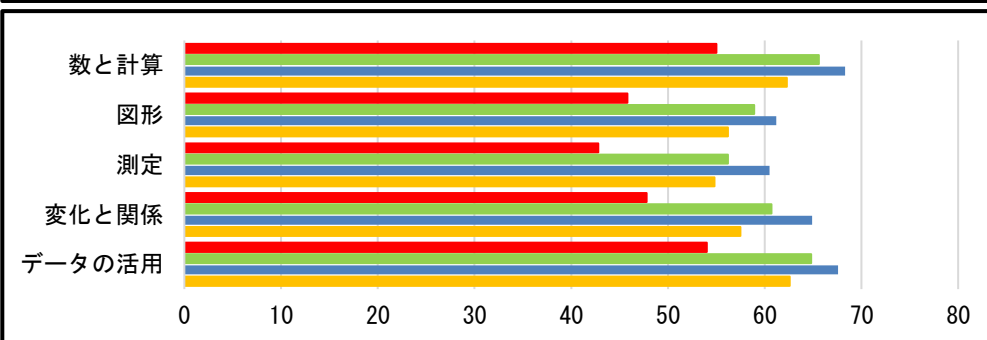
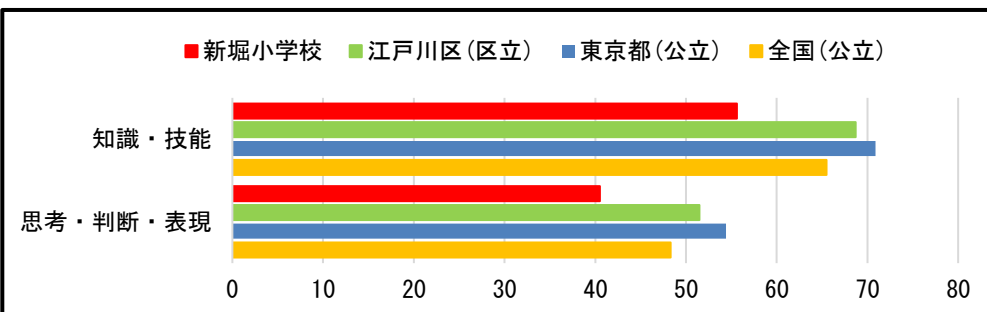
【平均正答率の差】

新堀小学校	49%
江戸川区 (区立)	61%
東京都 (公立)	64%
全国 (公立)	58%
都との差	-15ポイント

%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都 (公立) のデータを基に定めている。

「領域別」の結果



【分析結果と授業改善に向けて】

<分析>平均正答率 49%は、都より 15 ポイント低い。D層が 38% と他の層と比べて多い。「図形」の正答率は 45.8%、「測定」の正答率は 42.8%、「変化と関係」の正答率は 47.8%で 50%以下となっている。

<授業改善>計算や公式などの基礎基本は、タブレット学習や宿題で繰り返し学習し、定着を図る。また、文章問題は、図や線分図の見方・描き方を身に付けさせ、視覚的に考える力を育成する。問題解決型の授業では、自分の考えを説明する話し合い活動を継続して行い、学習内容の理解を深める。